

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	北九州市立総合療育センター西部分所 きらきら通園		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 25日		2025年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 11日		2025年 3月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○訪問先施設評価実施期間	2025年 3月 26日		2025年 3月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	2施設	(回答数) 2施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保育所等訪問支援の対象が通園児であるため、子どもの様子や対応方法については通園において確認したり、試行したりすることができる。	・訪問前に訪問先施設とも連携を取り、保護者からの相談内容だけでなく、訪問先施設からの相談内容も把握するように努めている。	・訪問後の様子についても確認する機会を設け、より良い支援につなげていく。
2	・親子通園であるため、保護者の保育所等訪問支援に対する希望内容をタイムリーに伺い、把握することができる。	・通園時の保護者との会話の中で、併用先の施設への保育所等訪問支援が適当と思われた際、個人懇談を実施して事業内容を説明し提案している。	・通園時、会話の少ない保護者に対しては、職員から併用先の様子等を積極的に伺い、保育所等訪問支援のニーズを把握していく。
3	・通園にはクラス担任の保育士・指導員に加え、担当のリハビリテーションスタッフがあり、相談内容によってはリハビリテーションスタッフも訪問に同行して支援を行うことができる。	・相談内容によってはリハビリテーションスタッフが同行訪問し、訪問先施設の状況等を踏まえた上で支援するよう心がけている。	・保護者及び訪問先施設と連携を充実させ、より具体的な相談内容を確認する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問支援の希望時間が当園の通園時間帯と重なっており、通園時間帯にクラス担任2名中1名が代替職員となる。	・通園のクラス担任が訪問支援も担っており、訪問支援の時間帯変更も難しい。	・現在、児童発達支援管理責任者がクラス担任と同行することも多いが、児童発達支援管理責任者のみでの訪問支援も検討していく。
2			
3			